

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株)クレアメディコ	代表者	岡本 恒夫	法人・事業所の特徴	「医療・介護の原点はやさしさ」 上質な医療・介護を提供し、信頼され、選ばれる「さわやか苑」を目指し、地域医療・介護に貢献します。
事業所名	多機能ケアセンター さわやか苑長岡藤沢	管理者	岩崎 智美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	1人	1人	1人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規利用時、契約段階から担当職員を決め初回利用時から安心して利用できるよう関わっていく。</li> <li>研修年間スケジュールを作成し、個々のスキルUPを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に担当を決め担当者会議から参加できるように努めたが、利用後に担当が決まる事があった。</li> <li>職員により差が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画が具体的でなく表現があいまいな為、明確な取り組み結果が見えてこなかった</li> <li>事業所評価で前回の改善計画に対する取り組み状況と今回の自己評価状況の人数が違うがどうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価、外部評価の勉強会を4月、10月に開催する</li> <li>新規利用が決まった時点から担当職員を決め、事前情報を全体に周知し利用当初から積極的に関わる</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部、内部関係なく手を止め正対し笑顔で挨拶をする。</li> <li>玄関表記を外部の方が分かり易いように見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>接遇環境委員会を通じて毎月、接遇チェックを実施。また、都度伝え全職員に意識付けをした。</li> <li>玄関表記は変更できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>玄関が分かりづらくどっちに入っていかわからなくなる。工夫がわからない</li> <li>職員はいつも元気に挨拶してくれる。</li> <li>窓口が分からない為入ってすぐどこに声を掛けていいかわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>接遇環境委員を通し毎月の自己接遇チェック、他者評価継続し接遇向上を目指す</li> <li>施設全体で玄関表記、窓口を明確にする</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>苑内の地域交流委員会と連携し、みんなの集い案内やハッピー通信の内容を工夫しより地域に密着できるようアナウンスする。</li> <li>雑巾プロジェクトは継続し小学校だけでなく中学校とも交流の機会を増やす。</li> <li>年度内に3回以上地域の学校との交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生け花や雑巾を縫いに地域の方が少しずつだが参加をしてくれるようになった。</li> <li>町探検、雑巾プロジェクトや児童館で作った作品を届けに来てくれる等、交流が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議を通して雑巾の取り組みは理解しているがハッピー通信がよくわからない</li> <li>さわやか苑は知られているがデイのイメージが強く、小規模多機能の事業所自体があまり認識されていない</li> <li>3年前に町内の防災訓練の際、職員に車いす操作等教えてもらってとてもよかった印象がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回、町内の方を交えてSH入居者とイベントを行っているがそれに多機能の職員、ご利用者様も一緒に参加する</li> <li>引き続き雑巾プロジェクトは継続し小学生との交流を続けていく(年4回)</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員対象に地域資源、社会資源とはどのようなものがあるかの研修を行う</li> <li>引き続き、在宅生活を支える為の資源を確認し在宅生活を継続できるように支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員に地域資源や社会資源とはどのようなものかの研修が出来ず口頭で伝えるのみになってしまい理解を得る事が出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のイベントに参加しているのは知っている</li> <li>事業所職員をアピールする機会を持たらと思うコミセンの食事会等もあるので興味があれば声を掛けて頂ければ紹介できると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源、社会資源についての勉強会を5月、9月実施し職員の理解を深める</li> <li>職員が地域に出向き小規模多機能の事業所を地域の方へも知ってもらう</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議に現場の職員も参加し、ご家族や地域の方との関わりを増やす</li> <li>運営推進会議内を通じ施設と地域の情報をより密に共有し共に協働していく</li> <li>運営推進会議内で事故、苦情報告を行い、頂いた意見も参考に改善に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議には現場職員の参加がほぼできなかった。</li> <li>運営推進会議内で出た意見を地域交流に活かす事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席しているが、雑巾などを通し地域と関わろうとしている想いは伝わっている</li> <li>他の地域密着型の施設も職員の出席は少ない。実務が忙しいのがわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議には現場職員にも参加できる機会を作り地域交流の意味を理解してもらう</li> <li>運営推進会議内で施設と地域の情報を共有し介護に関する困り事を聞き関りを強化していく</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練年間計画を地域の方へも公表する</li> <li>地域防災訓練に参加する</li> <li>避難訓練等を通じて地域の方へ介護の勉強会や看護師から応急処置の方法を伝える機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練は年間計画通りに行えたが地域の避難訓練や勉強会等の機会が作れなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何年前前は地域の防災訓練に参加してくれて車いすの操作を教えてくれたりした。その時は頼りになる事業所だと思った</li> <li>方が一の事があった場合は町内の人も頼らないといけない。どういう風に見えるか対応を町内でも話さないといけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練年間計画は4月の運営推進会議内で発信</li> <li>地域の防災訓練計画の情報を確認し地域の防災訓練に参加する</li> </ul>